会　議　録

◇詳細―企画調整グループ　電話03－4566－2511

<table>
<tr><td colspan="2">附属機関又は
会議体の名称</td><td>平成30年度　第2回総合教育会議</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局（担当課）</td><td>政策経営部企画課</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td>平成31年1月28日（月）　13時00分～14時00分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>教育委員会室（本庁舎8階）</td></tr>
<tr><td colspan="2">案件</td><td>平成31年度教育大綱の決定について</td></tr>
<tr><td rowspan="4">公開の
可否</td><td rowspan="2">会議</td><td>■公開　□非公開　□一部非公開</td></tr>
<tr><td>非公開・一部非公開の場合は、その理由</td></tr>
<tr><td rowspan="2">会議録</td><td>■公開　□非公開　□一部非公開</td></tr>
<tr><td>非公開・一部非公開の場合は、その理由</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出席者</td><td>委員</td><td>高野区長・三田教育長・樋口教育長職務代理者・北川委員・白倉委員・藤原委員</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>政策経営部長・企画課長・庶務課長・学務課長・放課後対策課長・学校施設課長・指導課長・教育センター所長・統括指導主事・企画課企画調整グループ・庶務課庶務グループ、教育政策担当</td></tr>
</table>

○企画課長

ただいまから平成３０年度第２回豊島区総合教育会議を始めさせていただきます。

本日、傍聴者はいらっしゃいません。

それでは、議事進行につきましては、会長の高野区長よりお願いいたします。

○高野区長

本日は各委員におかれましては大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

２月１日には東アジア文化都市の開会式という、豊島区の長い歴史の中でも日本を代表した国際的イベントの開催を控えており、今まさにはらはらどきどき緊張感で一杯です。明日、西安より視察団がお見えになる予定で、体制づくり等々含めてこの一週間は慌ただしくなりますが、おかげさまで１月３１日には教育委員会の皆様にもご出席いただく歓迎夕食会を開催し、２月１日には東京芸術劇場にて開会式を行い、約２，０００人にご参加いただきます。文化庁長官をはじめ国の要人や都議会、友好団体のほとんどの首長がいらっしゃいます。冒頭に「わたしは未来」という曲を各校選抜の１５０人程の子供たちが歌い、同時に各小学校２２校の「わたしは未来」の練習風景をビデオ上映し、小・中学校合わせて１万人の子供たちの参加による東アジア文化都市の開催ということが PR できると思います。昨日、試写を見たところ小学校名が小さかったため、子供たちが歌っている姿を映すのも良いのですが、学校の名前を大きく出すように修正をかけました。２２校の全小学校が参加するのは画期的であり、一万人の子供たちの参加が内外にアピールでき、子供が主役だという印象を与えられるのではないかと思います。当日は都知事をはじめ、多くの要人がお見えになり、西安や仁川の行政視察団もいらっしゃいます。さらにはインドネシアのジョグジャカルタやヨーロッパからはブルガリアが来る予定だったのですが、どうしても今回都合がつかないということでした。東アジア文化都市は EU、ASEAN 等々と連携していきますが、そのきっかけがこの豊島区からスタートするため非常に注目しています。文化庁や文科省をはじめ、都知事や東京都生活文化局からも多数お越しになるようで、大勢のお客さんの対応が大変で、どうなることやらと思っていますが、２月１日は必ず成功させたいと思っています。

また、西口公園の工事の塀の全てにラッピングを施し、一夜にしてまちが変わりますのでぜひ期待してください。このような形はおそらく初めてかと思います。開会式の後は歩いて移動するのですが、途中には豊島区・池袋の街の雰囲気が感じられるのではないかと思います。

また、現在、世界中が禁煙のムードになっておりますので、外国人の目につくようなところの喫煙所は撤去いたします。このような様々な取組の計画を立てているところです。東京芸術劇場の５階の展示ホールにはアニメが一堂に会します。私もまだ見ていませんが、アニメ関係の企業の方々の出展であり、これらは力作であります。さらに２月１日から庁舎がマンガ・アニメのお城になり、センタースクエアではパラアートの開会式があるとのことで、次から次へとすごいですが、良いチャンスが訪れたと思っていますので、フル回転で頑

張りたいと思います。

長くなりましたが、お忙しい中、総合教育会議にご出席ありがとうございます。まもなくこの総合教育会議が設置されて４年になります。総合教育会議では区長部局と教育委員会が教育政策に関し、協議・調整する場として、教育都市としまの実現に向け、この総合教育会議がひとつの中心となり、まちや学校が変わっていきます。その中で全校のトイレの洋式化が今年度末で終わり、非常に評判が良く、色々なところから高い評価をいただいております。これもこの総合教育会議からお話が出ています。さらには子どもスキップの教育委員会への移管については大変な時間が掛かりましたが、教育委員会のご理解を頂きました。22 校全校で子どもスキップを運営しているというのは豊島区の大きな特色であり、「共働き子育てしやすい街」の第１位にランキングされた１番のポイントです。まだまだ大変だとは思いますが、全国のお手本になっているようです。

また、一年間を振り返ると国内外で自然災害が非常に多く発生し、特に夏場の猛暑では体育館の使用が全くできないほどでした。そこで冷暖房の設置を求める声が多数寄せられ、また陳情も出ており、こうした要望を受け、他の自治体に先駆けて一斉に全校に冷暖房設備を入れるという政治判断をいたしました。当初はリースの場合は補助金が出ないということでしたが、補助金がなくとも設置するよう指示をしたところ、都がリースでも補助金を出すことになり、豊島区の強い要望に東京都が答えたといってもいいのではないかと思います。安全・安心な街づくりは教育委員会と一体となり、先般、セーフコミュニティの再認証を受けました。これと一番連動しているのはインターナショナルセーフスクール（ISS）であり、明日、朋有小学校と富士見台小学校、その翌日には高南小学校と、計３つの小学校が同時に国際認証を受けるわけであり、教育委員会としても大きなイベントです。これからの ISS の進め方についても総合教育会議での決定が区の方向性を示していきます。

この一年間が豊島区の大きな大改革の時代になるのではないかと思っております。これからも教育委員会と連携しながら各種の施策を推進して参りたいと思いますので、ぜひともご協力の程をお願いしたいと思います。

本日の議題は平成３１年度の豊島区教育大綱の決定についてでございます。始めに庶務課長からご説明をさせていただきまして、その後に教育委員の皆様からご意見を賜り、３１年度の教育大綱を決定したいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

○庶務課長

それでは私から平成３１年度の豊島区教育大綱（案）につきましてご説明を申し上げます。今年度からの変更点等を中心にご説明をさせていただきます。来年度の教育大綱でございますが、表紙の部分に東アジア文化都市の関連の写真を掲載させたいと思っておりますので現在のところ空欄となっております。

１ページでございます。１に教育大綱の策定の意義ということで掲載させていただいておりますが、今年度と同様でございますので省略させていただきます。２の教育大綱の位置づけでございます。教育大綱につきましては豊島区の教育振興基本計画を大綱ということで位置づけております。今年、豊島区教育ビジョン、豊島区教育振興基本計画２０１９年か

ら２０２４年までの計画でございますが、現在策定中でございます。こちらが大綱と位置づけられるわけでございます。３の計画期間でございます。新たな教育ビジョンの計画期間、２０１９年から２０２５年までの６年間ということで策定を進めるものでございます。４の重点施策につきましては後程ご説明させていただきます。

１８ページに豊島区教育委員会の教育目標を掲げております。教育目標につきましては内容の変更はございません。次の１９ページから、平成３１年度の豊島区教育委員会の基本方針を載せております。今年度との変更点は大きく３点ございまして、３１年度から中学校におきましても特別支援教室の巡回指導が始まりますので掲載をしております。

２２ページの「４　安全安心な教育環境の整備・充実の（１）」でございます。先ほど区長からもお話がありましたとおり、インターナショナルセーフスクールの認証・再認証について３１年度はさらに進めて参りたいということで記載をしております。また（４）に学校体育館の冷暖房化について記載をしております。なお、こちらの基本方針につきましては昨年、平成３０年１２月１２日の教育委員会で決定させていただいたことをご報告させていただきます。

それでは重点施策についてご説明をさせていただきます。３１年度、特に力を入れていこうと考えている施策につきましてピックアップして説明を申し上げます。

３ページでございます。「重点施策Ⅰ　子供の未来を応援する対策」の「（１）ICT を活用した学習活動の推進」でございます。「⑤ 学習用タブレット端末の児童生徒一人一台環境に向け課題を整理し、実施に向けた検討を進める」ということで新たに項目を加えております。今年度、国が示しております３人に１台のタブレット端末の整備が終わるわけでございますが、将来的に１人１台という環境を整備したいと考えております。

４ページでございます。「（２）子どもスキップ事業の充実」でございます。④でございますが、今年度始めましたスクール・スキップサポーターについて記載をしております。特別な支援を要する児童に対して学校における教育活動から放課後にわたる切れ目のない支援を行うため、すべての区立小学校および子どもスキップにスクール・スキップサポーターを配置することを重点に掲げております。

８ページでございます。いじめ不登校防止対策の推進について記載しております。①でございますが、今年の第二回区議会定例会におきまして、いじめ防止対策推進条例の改正を予定しております。その内容でございますが、学校及び子どもスキップ全体で、豊島区立学校だけでなく、私立学校の児童生徒など、すべての児童生徒を対象として、いじめの未然防止および早期発見に取り組む視点を取り入れると記載をしております。

１０ページでございます。「重点施策Ⅳ 国際社会に生きる人材の育成」について、「（１）東京２０２０オリンピック・パラリンピック教育の推進」でございます。①といたしまして、東アジア文化都市２０１９豊島に係る記載をしております。各学校におきまして、東アジア文化都市２０１９豊島に向けた取り組みを実施いたします。給食で中国・韓国の伝統料理を献立に取り入れ、多角的にアジア地域に興味を持つことにより他国の文化の理解を深める、ということで各学校において取組を進める予定としております。

１３ページでございます。「重点施策Ⅴ 安全・安心な学校づくり」の「（１）インターナ

ショナルセーフスクールの全校化」でございます。①でございます。清和小学校に加えまして２つの小学校など計３校が、国際インターナショナルセーフスクール認証取得に向けた取り組みを推進するとしております。これにより、全８ブロックにおきまして１校以上の推進校が設置されることとなります。

１６ページでございます。「重点施策のⅥ 学校改築および施設改修」の（３）でございます。冒頭に区長からお話がありましたとおり、学校体育館の冷暖房事業整備ということで、体育館に冷暖房整備のない２４校の冷暖房整備を実施するということを来年度の重点課題として取り組むことを教育大綱に掲げています。説明は以上でございます。

○高野区長

ただいま事務局より平成３１年度の教育大綱について説明をいたしました。各委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。樋口教育長職務代理者からお願いいたします。

○樋口教育長職務代理者

ありがとうございます。東アジア文化都市２０１９豊島の開催の週、大変お忙しい中を区長にこうして総合教育会議を開催していただき誠にありがとうございます。御礼を申し上げます。私からはこれからの学校教育の改革も含めましてお話をさせてください。

２０２０年度からいよいよ小学校を皮切りに新しい学習指導要領で新しい教育が始まります。そうした中で子供たちに身に付けさせたい力というのが文部科学省から出ておりますけども、今まで自分たちが獲得した知識や技能を習得してそれを生活と結びつけられるようなそういう力、それからその中で考えたり判断したり表現したりするなどの、つまり問題解決をするのに必要な力、そして３点目に、生涯を通じて学んでいこうという意欲に向かう、学びに向かう力や人間性とこういうふうに言われているところですが、こうした力を持った子供たちをこれから育てていきましょうと国を挙げて言っています。私は「なぜそれが必要なのか」ということを考えなければいけないと思います。教育も社会も経済も、不易と流行の部分があり、とりわけ不易の部分については周知のところでありますが、不易ではなく流行としてこれからどんなことを大事にしていかなければならないかということをいつも考えています。たくさんのキーワードがありますが、私は次の３つを大事にしようと思っています。

１点目はグローバル化、２点目に多様性、そして３点目にAIを含めた情報化、そしてこの根底に高齢化社会になるという大事なところはありますけれども、一応学校教育という視点から、グローバル化と多様化と情報化のキーワードを抑えたいと思います。その視点からこの大綱を見直してみたらどうだろうかと思い、もう一度見てみたところです。そういたしましたときに、やはり今回の東アジアの件もありますが、色々な考えをもった国や民族はもちろん、時代背景も違う人々と協働してより良いものを創り上げていくとなったときに、今の子供たちに多様性を認めるというのが大変難しいと思います。したがいましてこの「重要施策Ⅳ 国際社会に生きる人材の育成」というのは、まさにそこであろうと思います。具体的には豊島区ならではの東アジアと東京オリンピック・パラリンピック、それから外国語

の活動や教育、多文化共生と、小見出しとしては３点に分かれてはいますが、私はこの重要施策Ⅳはまさに流行の部分でなくてはならない柱であろうと思っております。そうしたことを考えたときに、とりわけこの多様性を認める視点から言えば、言葉を操るのはもちろんですが、人を理解する・共生して問題を解決していくというところを大事にしていきたいと思います。今の小学生・中学生、幼稚園もそうですが幸せなことに、今回実施させていただいて体験できるこの東アジア文化都市の様々な活動は、まさに体感できる活動であり、これは豊かな体験学習であると私は位置づけております。そうしたことをぜひ来年度の学校教育の中で、自分の学校だけという狭い視点ではなく広げていただけたらありがたいと思っております。

２点目は多様性を認めるということももちろんですが、人としての在り方や生き方の道徳教育の重要性です。今年度から小学校は教科書を使い、来年度は中学校で教科書を使って道徳の授業、いわゆる道徳科を進めることとなります。私は日頃大学生に道徳教育の一端を教えているのですが、昨日ある大学生が道徳の授業が終わった時にこんなことを言いました。「先生、僕はこの半年間でいろんなことを勉強したけれど、こう思ったんだ。子供たちが今日より明日がより良い生活やより良い生き方になる、そういうために道徳教育や道徳の授業がどうしても必要なんですね」とその学生は言うんですね。今日より明日がより良くなるためにという視点をもった心を育む道徳科になってほしいと思います。新聞などマスコミが、評価、評価、とそこのところの言葉だけを言っていますが、そうではなく、子供たちが何を考えて、どのように人と関わっていくのかを大事にするようになってほしいと思います。これは重要施策Ⅱの柱にございました。もうひとつ ICT のところで言えば重要施策Ⅰの柱でございますので、これは ICT が操れるというよりは ICT を使うことができて道具としてより深い思考ができる、そういう子供を育てていただきたいと思います。

最後に「重要施策Ⅶ 教員の働き方改革」です。学校教育において子供たちの学びを指導したり支援するのは主に教員でございます。その教員たちがしっかりと子供たちに向かえるような時間を確保するために、今、国を挙げて、答申も出たとお聞きしているところですが、ただ国が数的にああいっている、こういっているというのだけでなく豊島区の学校はどうなんだ、教育として、豊島区の先生たちはどこの点に改善を考えているのだろうかと一緒に考えられるような施策になっていただければ大変ありがたいと思うところです。私からはそのようなことを感じた次第でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○高野区長

ありがとうございます。それでは北川委員にお願いいたします。

○北川委員

私からは、地域、家庭、学校との連携という点からお話をさせていただきます。まず第一に保護者の皆様が自分の子供を学校に通わせるうえで一番感じていることは、安全・安心な学校であるということに尽きると思います。昨年の夏、まさか猛暑というものが子どもに対する危険として表れてくるとは想像しておりませんでした。それに対して豊島区はいち早

く体育館の冷暖房化を実施していただけるという決断があったということは本当に感謝しております。

また、昨今家庭の形も変わってきております。豊島区では子どもの放課後対策や保育の面でも非常に充実した施策をとっていると思います。ということはひるがえって考えてみますと、昼間保護者が家庭におらず留守にしているご家庭が非常に増えてきているとのことですので、その間、子供たちを一体誰が見守ってくれるのかということになりますと、やはり地域の力が非常に重要となっております。今 ISS で色々な小中学校の子供たちが自分たちの学校をより良くする、また友達との関係をより良くする、地域とのつながりをより密接にするために色々な取組を子どもたち主体で進めておりますが、そこにはやはり地域の力が必要不可欠になっていると思います。この ISS の取り組みが始まったことで地域の皆様が学校に対する色々な働きかけが積極的に、また、具体的になっているなと感じているところです。地域の皆様の朝夕の子供たちの登校の見守りや、放課後子ども教室の運営に携わっていただいたり、ふるさと教育で色々な知恵・知識を子どもたちに示してくださるとか、本当に色々な人材が豊富な豊島区であると思いますが、家庭の皆様も学校や地域と一緒に子供を育てるという意識も根強くなってきていると思うのですが、いったん学校を卒業してしまうと、その意識がだいぶ薄れてしまうんですね。ですから、私たち豊島区として子供たちをどのような大人に育てたいか、人間に育てたいかとか、また特別な支援を要する子供たちに対して豊島区としてはどんな手立てをとっているのかという情報をきちんとお示しすることによって、地域の皆様も豊島区の学校・教育について関心を持ってくれると思っております。子供たちを見守ってくれている様々な団体がありますが、そこに協力をお願いするだけではなく、必要でかつ正しい情報をきちんと提示しなければいけないということを、例えばホームページ等でも色々お知らせしていると思いますが、ホームページは自分で調べようと思わないと得られない情報です。どんな人でも平等に手に得られる情報として例えばまちの掲示板であるとか、広報としまであるとか、そういうものをより良く活かしていっていただけたらと思っております。

また、生活力の低い若者に接する機会が多くありまして、これは小さいころからの経験があまりにも少なすぎるなと思っています。例えばタブレットなどはようやく３人に１台となり、理科の実験道具や調理実習の道具等、色々体験できるものがあると思いますが、私たちが子供の頃ですと、４、５人での１つのグループの皆で使って調理実習や理科の実験をしましょうというのが多かったんですが、できるだけ１人１つで色々な体験ができるような環境を整えていただければ非常にありがたいと思っております。

○高野区長

それでは次に、白倉委員にお願いいたします。

○白倉委員

昨年末に議論した内容が、区民、学校、子供たちに夢を与えるものになって大変嬉しく思います。私は健康教育についてお話をさせていただきます。

今、がんは二人に一人が罹って毎年１００万人が罹患し死亡率では第１位です。しかし、がんは少しの注意で生死を分ける病で、毎年の健診は必須で、未然防止や早期発見、早期の治療をすれば不治の病ではありません。現在、小６と中３でがん教育が実施されております。児童・生徒ががんに対し正しい知識を習得し、がんにかからない健康な体づくりに励んでおります。がんは無知が一番怖いため、教育をしていると思います。高校・大学でがん教育をしているか分からないですが、義務教育期間中にがん教育の推進をすることが大変大事だと思っているので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

また、次に歯と口腔の健康づくりですが、日本歯科医師会では３０年前に始めた８０２０運動の当初達成率は１０％でしたが、現在は５０％を超えています。今の子供たちが８０歳になるころには１００％近くを達成されると思われます。一生自分の歯で食事ができることは大変素晴らしいことで、認知症の予防や健康寿命の延びに寄与しています。現在、小中学校では年二回の歯科検診、衛生士による歯ブラシ指導、歯科講話、そして昼食後による歯磨きは全校で実施しています。本日もここに来る前にトイレに寄ったところ、洗面所では職員の方が歯を磨いていて、ずいぶん広まったものだなと感じました。生活習慣の習得や口腔保健の向上並びに、子ども自身の健康に関する意識の定着に大いに役立っております。引き続きの推進をお願いいたします。

最後に、私自身が思うのですが、人間にとって何が一番大事かといいますと、やはり健康だと思います。小中学校の健康教育をしっかり子どもたちが身に付けて笑顔で安全・安心に学校に通いその後の人生に夢と希望を抱いて生きて行けるように応援したいと思います。

〇高野区長

ありがとうございます。それでは藤原委員にお願いします。

〇藤原委員

私は特別支援教育の推進といじめ・不登校の防止対策についてお話をしたいと思います。通常学級に在籍する特別支援を必要とする児童・生徒は年々増えています。国の調査でもものすごい増え方で、２０年間に３０倍位になっている状況です。また、豊島区は先進的に小学校に特別支援教室を整備し巡回指導を充実させてきました。今回それを中学校でも行うことになったということは大いに期待しておりますが、そういった取り出しの指導をして、障害がなくなるということはないのです。障害というものは一生続くものですが、指導により対応力やスキルを身に付けさせることで人と関わる力がすごく高まり、色々なことで将来の自立に直結するというとても重要な教育だと受け止めています。まず教育支援員の数を増やすことはとても大事です。先ほどお話があった、切れ目のないサポート、スクール・スキップサポーターの対策もものすごく子供たちにとって重要なことだと受け止めています。そのような人たちがいることで担任の先生は学級の子どもを指導しつつ、もしも個別の子供たちに取り出しが必要となったとか、別の場所で指導するときにも他の子供たちが安心して教室で担任の指導が受けられるということが保護者にとっても子供にとってもとても重要なことだと思いますし、それぞれの子供たちも自己肯定感の高まりに繋がると思っ

ています。

また、特別支援教室での教育が中学校でも始まりますが、小学校のこれまでの実績を学びながら切れ目のない対策ということでうまく先生方も学びながら適した指導方法を見つけていって欲しいということと、これはお願いですが、先ほどタブレットについて１人１台にしていければという話が庶務課長よりありましたが、特別支援教育ではタブレットはすごく大事です。子供たちが集中力を保つとか、見えにくいものを見えやすくするとかそういったことはすごく大事で、少し文字や図などを広げてみるだけで集中力が増すとか色々な情報を上手に伝えることができます。ですので、特別支援教育における ICT 機器の活用ということをしっかり進めていきたいと思っているのでよろしくお願いいたします。

いじめについてですが、いじめによる自殺のニュースを聞くと本当に心が寒くなります。豊島区でそういうことがあったら大変だなといつも思っていて、よそのニュースを聞くと、自分の区のことのように思いながら聞いているところです。そしてなぜ防げなかったのかな、誰か気が付かなかったのかなと、親はどうなんだ、学校はどうなんだ、先生はどうなんだ、周りの人はどうなんだといつも思います。そういった中で「いじめ防止対策推進基本方針」の改正を行うことで、豊島区の全ての児童・生徒を対象としていくことは本当に良い方向へ進んでいると思います。豊島区が住みやすいまちになっており、保護者の方からも豊島区が教育を受けさせたいというまちになっているのは、この「いじめ防止対策推進基本方針」の改正があり親御さんにとって大きな安心のもとになるのではないかなと思います。ただ、そういったことはしっかり区民にアナウンスしないといけないと思います。皆で子供を守っていけるという環境をつくるために学校も地域も、そして区民全体が同じ目線でいじめをどうやって防いでいくかということを考えていくような環境づくりが大事だと思います。そういった中で ISS とセーフコミュニティの取り組みというのはこの肝になる部分だと思います。子供たちを皆の目で見守っていくことにおいては ISS とセーフコミュニティがしっかりとタッグを組んでやっていくことが区民にとっても学校にとっても非常に重要なことだと受け止めています。

また、教育センターがゆずスマイル教室をやっていますが、児童・生徒にとって学び直しは本当に大事です。ひとりひとり皆違います。置かれた状況も不登校になるきっかけも皆違います。家庭に課題がある子供もたくさんいます。セーフコミュニティ、ISS といったものが子供たちを救うきっかけになると思います。なぜ子供が不登校になるかという背景を考える場合でもそういった視点を持つことが大事だと思います。先ほど子供たちにとっては体験が大事だというお話がありました。豊かな体験、自然体験、人と関わる体験をたくさんさせて子供たちの心が耕されて豊かになっていったら、子供たちが、自分もできる。楽しい。楽しいことが増えた。学校に行けてなくても楽しい場所がある。楽しい体験ができた。ということが子供の自立に繋がりますし、学び直しのエネルギーになるのかなと思っています。教育センターには引き続き頑張っていただきたいし、それを皆が支えてもらえたらと思っています。とりわけ先ほど樋口委員から働き方改革のお話がありました。色々なことが忙しいけれど、学校の先生方は教育をする、授業をしっかりする、生活指導をしっかりすることが教育の基本だと思います。「チーム学校」ということを頭におきながら、忙しいながらも

教員が大事なことをきちんと捉えながら仕事ができる環境づくりをしていきたいと思っております。

○高野区長

ありがとうございました。それでは一通り教育委員の皆様からから教育大綱についてご意見を頂戴しました。それでは教育長よりコメントをお願いします。

○教育長

まず、樋口委員からもありましたが、高野区長におかれましては２月１日の東アジア文化都市２０１９の開幕直前という中でこのような会を設定していただき誠にありがとうございます。各教育委員から本日の教育大綱の重点にあたるところを積極的に進めていきたいというご発言がありました。とりわけ、この東アジア文化都市の取り組みというのは、多様性、あるいは国際化の中で、グローバル化が進んでいる教育のあり方として非常に重要な役割を果たしていくということで、私どもも２月１日の開幕から子供たちと一緒に「わたしは未来」を歌い続けてこの東アジア文化都市を成功させていきたいと思っており、これも区長部局と車の両輪で進めていきたいと各委員の発言を聞きながら感じておりました。その中で育った子供たちが、国際都市としての豊島区、多様な文化が集まってくる豊島区という中で生きる力、協力する知恵、そうした文化の共有性を大切にする人材として成長していく場になると確信を持ってこの大綱を考えて行きたいと思っています。

２点目は、北川委員からも藤原委員からも発言がありましたが、インターナショナルセーフスクールを豊島区のセーフコミニティと両輪で進めてきたということが、安全・安心なまちづくり、安全・安心な学校づくりという大きな役割を果たしてきたのではないかと思っております。いよいよ今年度は全校化を実現できるというところまで来ましたので、しっかりと区と力を合わせて、地域の方々のご協力をいただきながら中学校ブロック８校を中心にしながら認証校はリーダー校となり、全校化の役割を果たすことで今年度頑張っていくことを２点目の課題としてまとめていければと思っています。とりわけその中でも、いじめは心の怪我ということで朋有小学校から始まり、各学校がいじめの問題についても自分たちの問題として、子供自身が取り上げてきたということもいじめ問題の解決に大きな役割を果たしていると思っております。いじめは、いじめられた子がつらい思いをしていると感じたものは全ていじめとして捉えると考え方が変わったことにより、早期発見・早期対応が可能になってきております。先般、特別区の教育長会がありましたが、ある教育長は自分の任期中に５回いじめ自殺の問題を経験し、大変つらい思いをしたとのことです。豊島区はそのような状況を幸いにも一度も経験しないで済んでいるのはこのような取組があったと話をしたところです。いじめの数は増えているように見えますが、初期の対応の取組みが大きな役割を果たしていると思いますので引き続き力を入れていきたいと思っております。

健康教育や特別支援教育を要するお子さんについて藤原委員や白倉委員からご発言をいただきました。がん教育は中学校の保健体育の中で教材として大きく取り上げられて教科書が変わってくるということになっておりますし、東京都教育委員会も国の学習指導要領

におけるがん教育の位置づけをしっかりやるようになったということで、今年前倒しでがん教育の事例集を作りたいと提案しているようです。ぜひこれは私どもも手を挙げて全国で初めてがん教育を進めた地区として、高野区長の提案で条例化し、教育委員会と一緒になってやろうと出されたことでもあり、しっかり検証していきたいと思っております。

また、ISS の取組を一層充実させることを進めて行きたいと思います。本日は委員の先生方から十分に触れる時間がなかったかとは思いますが、教員の働き方改革について、統計を取ったところ、豊島区は月当たりの超過勤務時間が７０時間を超えています。中学校は７２時間であり、それを４５時間以内にしなさいという答申が中教審より出されました。各都道府県になると思いますが、条例化を図って改善していくようにと答申が出たと聞いており、先般東京都の中井教育長とこの問題で同席しましたが、都も４５時間というのはなかなか厳しいが、やっていかなければならないということが議論されていたということでございます。大綱にも働き方改革が出ていますが、最新の国の方針も踏まえながら、豊島区で今までやってきたシステムの導入などの先進的な成果も検証しながら、出退勤の様子をシステムの導入によって学校が困難なく把握して対策を講じることができることや、部活の基準を見直すなど、できるところからやっていかないと前に進まないと感じています。

各教育委員の先生方が以上のような発言していただいたことが文字通り教育大綱のエキスになるところかと思いますので、これらをしっかりと進めながら教育を進めて参りたいということを決意を含めてまとめさせていただきたいと思います。

○区長

ありがとうございました。一通りご意見を頂戴いたしましたが、改めてご指摘や言い足りなかったことがありましたら遠慮なくご発言をお願いいたします。樋口委員はいかがですか。

○樋口委員

ありがとうございます。触れられていなかった幼保一元化についても、現在は検討委員会もできて十分な検討をしていただいている最中とお聞きしております。子供は年齢として輪切りではなく一年一年成長していきます。たまたま幼稚園があったり保育園があったり、小学校があったりとするわけですが、一年一年の成長を大事にして、公立ならではの連続性をしっかりと見たいと考えております。

○区長

では北川委員も何かあればお願いします。

○北川委員

先ほど東アジア文化都市で樋口委員から、まち全体をあげて色々な体験の場になる、というお話がありましたが、私も家庭だけでは経験できないことが、区全体を挙げて国際社会について色々なことを学べる良い機会になると思っておりますので、これからの１１月まで

の豊島区全体の催しを本当に楽しみにしています。

○区長

昨年７月で豊島区の人口が２９万人になり、これは４０年ぶりということでありますが、人口構成を含めて分析いたしますと、少子高齢化が如実に表れており、０歳から１４歳が４０年前の半分以下になっており、高齢者は倍以上になっています。外国人の人口は一割を超えており、新宿区に続いて外国人の比率が高いです。国際化は中国・韓国だけではなく、世界全体に対応できるよう、豊島区は国際アート・カルチャー都市を都市の将来像に据えており、まさに国際都市になる最大のチャンスです。２月１日は日本を代表し、東アジア文化都市に取り組むという使命を受けたわけであり、豊島区の国際化を進める大きなきっかけであります。できるだけ子供の出番をたくさん作ってあげたいなという思いがあり、これから目指す方向性は国際都市であるということと、これまで積み上げてきた文化によって交流をしていきたいと思います。

政治というのは争いを作り、経済は格差を作りますが、文化というのは将来を作り、平和を作ります。特に私たちが一番懸念していたのは、中国と韓国が国同士でぎくしゃくしたものがありましたので、東アジア文化都市も中止になるのかトーンダウンするのかと思っていましたが、中国も韓国もそれぞれ使節団を出してくれて交流していくということであり、やはり文化というのはすごいと思います。文化は平和を作り上げていくという思いをしておりますので、国際都市であり文化都市であるということを豊島区が取り組む最大のチャンスではないかと思っております。色々な面で子供たちが主役になれる環境をつくりたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

それでは白倉委員は何かございますか。

○白倉委員

今年の秋に巣鴨北中学校が新しくできると聞いて非常に楽しみにしています。また、教育ビジョン２０１０の検証の報告書を読ませていただいたのですが、幼稚園や小学校に通わせている保護者の方々は防犯をしっかりしておりますが、まだ不安を持っている人は大勢おりますので保護者の方に応えられるよういつも注意しなければいけないということを感じております。防犯カメラの設置は終了しておりますが、引き続き見回りや、インターナショナルセーフスクール等、学校で様々な取組をしておりますが、なお力を入れていかなければならないと感じました。以上です。

○区長

ありがとうございます。やはり安全・安心というのは全ての基本ですね。安全・安心なくしてまちづくりは進まないと思います。今回の ISS やコミュニティスクール等々、豊島区は将来のことも考えてとても良い取組をしていると思います。子どもたちの教育現場から安全・安心がしっかり位置づけられ推進されているということは本当に良いまちづくりが進められるのではないかと思います。

それでは藤原委員からもお願いいたします。

○藤原委員

教育長もそうですが、高野区長もいつも子供が主役とおっしゃいます。本当にその通りだと思います。今度東アジア文化都市の開幕式でも子どもたちが歌を歌い、そのビデオのプロモーションを行うと聞いておりとても楽しみです。以前は外国人の子供が大勢いると、大変だね、と眉が寄ってくるような人が多かったですが、今はそうではなく、外国人の子どもたちが多いとお互いに学べるというふうに変わってきていると思います。それは区を挙げてこのような施策に取り組んでいるからであり、文化を中心にして皆が繋がるようなまちづくりをしているおかげだと思います。学校も活力を得ながらやっていきたいと思います。ありがとうございました。

○区長

２月１日冒頭、小学生１５０人が「わたしは未来」を歌い、１万人の子どもたちが活躍し主役であることをアピールするスタートは国内外のキャスターも含め皆さんが相当注目すると思います。先日はアニメの成人式をやらせていただいて、仰高小学校の４０人以上の児童が歌っていただいてピシッと締まりました。最初、アニメ成人式と発表したところあちこちから区長はふざけてるいのではないかと言われました。マンガ・アニメの感覚はいまだにお遊びですが、マンガ・アニメというのは今や世界共通の文化で、外国で日本語を学ぶにはまずマンガ・アニメから勉強し日本語を覚えていくということが世界の潮流のひとつだというお話も聞かせていただいております。１部は厳粛に、２部・３部は色々やりましたけども、思い切ってあのような取組をしたところ、NHK が全国で３つの成人式を紹介したうちの１つに豊島区のアニメ成人式を取り上げていただきました。子供たちが成人式に参加することは子供さんにとっても良い経験になるし、成人になる皆さんが印象に残る、心に残るセレモニーだったなと感じてくれていると思いますので、これからもどうすれば舞台を華やかに、そして主役になれるのかということを考えていきたいと思います。

先生方のご意見を聞いて事務局から何かありましたらどうぞ。体育館の冷暖房化の状況はどうですか。

○学校施設課長

子供たちはもちろん、学校は地域の方々も利用する施設でもありますので、安心して施設を使っていただけるということは教育委員会も区としても必要であると思っております。安全・安心につながる部分はこれから着実に進めていきたいと考えております。

○区長

指導課長からもお願いいたします。

○指導課長

ありがとうございます。私からは２点ございます。１点目はいじめ防止対策推進条例が今

後できるということで、子どもたちの命を守るものになりますので、とにかく未然防止を大事にした条例と基本方針を進めて参りたいと考えております。

また、命という繋がりの中で、健康教育でございます。２０２１年から中学校においてがん教育が保健体育の教科となりますので、子供たちのみならず、家族の中でがんにならない体づくりというのを子供たちに植え付ける意味でもがん教育をさらに進めていきたいと考えております。文部科学省もがん教育には力を入れてきておりますので、東京都と最先端を行っている豊島区で頑張っていきたいと考えております。

○区長

放課後対策課長からもお願いいたします。

○放課後対策課長

北川委員から、地域・家庭・学校の連携というお話がございました。地域の力で子供たちを見守るということは重要だというお話もありまして、私たちが取り組んでいる放課後子ども教室において地域の皆様に講師をやっていただいて、ふれあいの中で様々な経験をしていただいて生活力もついていくと感じており、力を入れていきたいと思います。

また、スクール・スキップサポーターですが、学校とスキップをつなぐ形であり、学校からもとても喜ばれており、良い制度をつくっていただきありがとうございます。３０年度は３倍の１８名位の応募はあるものの、６名しか埋められなかったのですが、やはり一定のレベルが必要であり、なかなか採用できず留まっておりましたが、３１年度に向けて６名合格しており、少しずつ増やしていきたいと思っております。

○区長

それでは学務課長からもお願いいたします。

○学務課長

各委員の先生方から様々なご意見をいただいて、グローバル化、多様化、情報化や、子供の体験という意味では移動教室も実施しており、白倉先生がおっしゃる健康教育や、特別支援のこともそうですし、様々な学校生活で子供たちが安心して過ごせるようにハード・ソフト面でも支えて行けるよう３１年度もしっかり取り組んでいきたいと思います。どうもありがとうございました。

○区長

それでは教育センター長からもお願いいたします。

○教育センター長

藤原委員から不登校の子供のゆずスマイル教室のお話がでましたが、２３区の中で不登校の子供たちの宿泊教室というのは年々どこの区市も減らしています。その中で、本区が、

失敗してもやり直すことができるんだよという形で、子供たちがソーシャルスキルを三泊四日で体験させているということに保護者は大変喜んでおります。保護者の感想の中でも移動教室に行けない子供たちが、教育センターの移動教室に行けたということは非常に大きな人生の糧になるというご意見もいただいており、本当にありがとうございました。

○区長

まだまだご意見があろうかと思いますが、初めに庶務課長から教育大綱について説明をいただいて、これについて様々なご意見をいただいたわけでございます。それではこの平成３１年度豊島区教育大綱について決定をしたいと思いますがよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

○高野区長

異議なしという同意のご発言をいただきましたので、平成３１年度豊島区教育大綱について決定をしたいと思います。今後も区長部局と教育委員会が連携を図りながら教育都市・としまの実現に向けて、共に頑張って参りたいと思います。引き続きのご協力をお願いいたしまして平成３０年度第２回の豊島区総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。